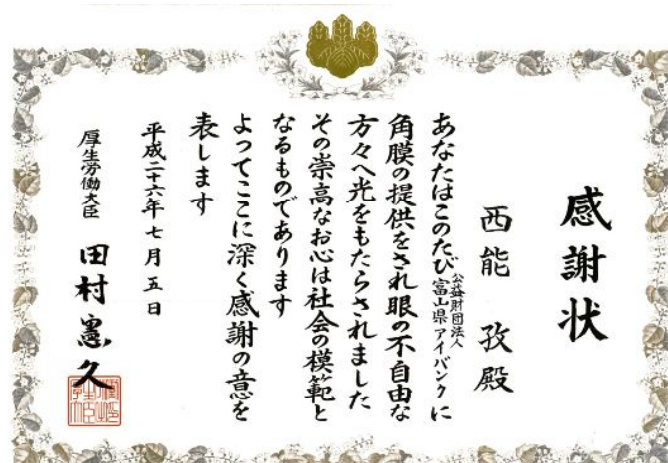


今月の一言

キーワード：アイバンク

父は、ライオンズクラブで献眼活動を推進し、25年前からアイバンクに登録していました。亡くなったなら献眼をしたいとの故人の遺志を尊重して献眼をしました。昨日23日に、公益財団法人富山県アイバンク様のお蔭で「厚生労働大臣感謝状」伝達式に出席をしました。本当にありがとうございました。アイバンク様から、「角膜手術をした2名の方に新たな光が戻った」との連絡があった時は、本当にお役に立てて良かった！父も喜んでいると思いました。現在、角膜の提供を待っている方は、富山県内10名・全国3,000名程度です。26年度10月時点では献眼者数11名、角膜移植者数17名。富山県内で今までに340名の方に角膜移植が行われているそうです。今回の伝達式で、90歳以上の方の提供が数名おられ、年齢は全く関係ないと実感しました。

アイバンク (Eye bank) とは、角膜移植によってしか視力を回復できない患者のために、死後、眼球を提供することに本人または遺族の同意を得て、移植を待つ患者に斡旋する公的機関のこと。日本でのアイバンクは、厚生労働大臣の許可を受けて運営される「眼球あっせん業」のことで、眼球銀行ともいいます。角膜とは、目の最も前のいわゆる茶目の前にある、透明な膜です。厚さは中央部で約0.5mm、周辺部の白目に近いところで0.7mm程度、直径は11~12mmです。目に入った光の焦点を合わせるための屈折は水晶体（レンズ）で行っていると思われがちですが、目の屈折力の多くはこの角膜の部分で行われています。したがって、ごくわずかな変形や混濁が視力には非常に大きく影響してしまいます。アイバンクに献眼するためには、万が一の際に、最寄りのアイバンクに連絡をすれば、アイバンクがすべて対応します。提供するための処置には約1時間程かかります。ご自宅でも、病院でも提供することができます。年齢制限もありません。近眼や老眼でも角膜は移植に用いることができますし、網膜などの疾患で眼のご不自由な方でも角膜は充分、移植に用いることができ、視力障害の方が光を取り戻すことができます。



2014年10月24日

さいのう とおる

追伸：紅葉の季節になりました。

葉狩り！どうして、“狩”なの？